

2018年5月8日(火)発行

～実践をたしかめ、ゆたかな学びのなかから、指導員の専門性をたかめあおう～

# 第43回全国学童保育指導員学校西日本会場(京都) 指導員学校ニュース第5号

2018年6月10日(日)9:30受付開始 10:00開会  
会場：京都教育大学(共通講義棟・1号館・2号館)

決定!



リーフレットの配布が始まります☆

全体会は3つの会場に分けて行い、講座も各教室の定員があります。そのため、午前の全体会、午後の講座共に申し込み順となります。参加を決めている方は早めのお申し込みをお勧めします！



## 講座紹介のコーナー♪

※★印はグループワークあり

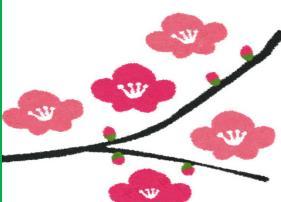
### 【理論講座】

#### ⑬特別な配慮を必要とする 子どもへの対応

子どもが困った行動をとる時、指導員は「一番困っているのは子ども」なのだから子どもの本当の気持ちを理解しようとつとめます。

その中でも子どもが自分ではどうしようもない背景=社会的要因を背負っている場合は、特に社会福祉の支援の対象としての理解と方法が必要となります。貧困、虐待、いじめ、異文化などです。

理解と対応の基本となる、知識や理論を学びます。



### 【実践講座】



#### ⑭学童保育の生活と遊び(★)

学童保育の生活の中心はなんといっても遊びです。夢中で遊び込むことが、子どもの成長発達にとってどれだけ大切なのか、指導員はどういうに問わればいいのか。実践から、その視点や働きかけのあり方を学びます。

#### ⑮学童保育の生活と集団づくり (★)

学童保育は子どもと指導員の毎日の生活の場所です。安心できる仲間・空間・時間こそが、継続した集団での生活を保障します。そしてそれは指導員と一緒に、子どもが自らつくり出しからこそ、大事に思えるし、居心地がよくなるのですね。まさに学童保育の根幹である理論と実践を学び合います。



## 講座紹介のコーナーのつづき♪



※★印はグループワークあり

### 【実践講座】

#### ⑯保護者に生活を伝え考え方 (★)

毎日忙しい仕事と家庭生活を送る保護者に、いつ、どんな方法でどのように学童保育での様子を伝えるか、は指導員の大事な仕事です。

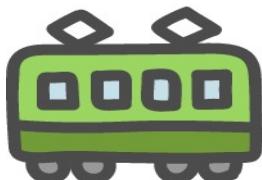
「連絡」だけでなく、「事実をそのまま伝える」でなく、子どもの気持ちを時には橋渡したり、保護者と一緒に悩んだりする子育ての仲間、伴走者としての実践を考え合います。

#### ⑰障がいのある子どもを含む 生活づくり (★)

学童保育では、しょうがいのある子もない子も一緒に生活します。指導員は一人ひとりの子どもの成長発達の道筋をとらえ、どの子も安心して自分の力を發揮出来るよう、働きかけます。その中で指導員と子どもの信頼関係が生まれ、子ども同士の信頼感につながる・・と言うは易し・・グループワークを通じてお互いの実践から学び合いましょう。

#### ⑱高学年を含む学童保育の 生活 (★)

高学年になれば行動範囲も広がり、学校に居る時間も増え、学童保育に帰って来る時間が少なくなったりします。しかし一方で、大人に依存しつつ自立していく思春期の入り口において、居場所を必要としているのが高学年です。異年齢集団の中で、高学年だからこそその要求をとらえた生活をどのようにつくっているのか、交流し学び合います。



会場の最寄り駅は、JR 奈良線「藤森駅」・京阪本線「墨染駅」

☆リーフレットは順次連協、もしくは市町村を通じて各学童保育所に配布します。

☆HP(<http://gakudou.me/aichikenrenkyou/index.htm>)にも近日中に掲載予定です。

☆申込ファイルはメール受信が可能な学童保育所には添付して送ります。

☆バスツアー開催決定です！申し込まれた方には個別で連絡します。



【お問い合わせ】愛知学童保育連絡協議会 指導員学校 PT  
〒456-0006 名古屋市熱田区沢下町 9-7-308  
TEL：052-872-1972 FAX：052-308-3324  
E-Mail：[aichigakudou@gakudou.biz](mailto:aichigakudou@gakudou.biz)